

14時30分解禁

平成28年3月 全国百貨店売上高概況

平成28年4月19日

I. 概況

1. 売上高総額	5,277億円余
2. 前年同月比	-2.9% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	82社 237店 (平成28年2月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,976,723㎡ (前年同月比:-1.3%)
5. 総従業員数	75,409人 (前年同月比:-2.7%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	8-10月 2.9%、9-11月 0.9%、10-12月 0.3%、 11-1月 -1.4%、12-2月 -0.5%、1-3月 -1.6%

【参考】平成27年3月の売上高増減率は-19.7% (店舗数調整後)

【特徴】

3月は降水量が少なかったものの全国的に気候変動が激しく、特に中旬以降、気温の低い時期があったことから春物衣料の動きが鈍かった。また、急激な円高や株価の低迷などを要因とする消費マインドの冷え込みもあり2.9%減と2か月ぶりのマイナスとなった。

地区別では、ほぼすべての地区で前年を割り込み、昨年4月からプラスが続いていた東京も1年ぶりで前年割れするなど、10都市計も1.7%減に終わった。

商品別では主要5品目のうち、雑貨が2.6%増で12か月連続のプラスとなったほか、食料品も微減に留まる健闘を見せたが、気候条件などから低迷した衣料品や身のまわり品のほか、家庭用品の落ち込みを挽回するまでには至らなかった。

細分類では、好調の続く化粧品が全18地区中16地区で前年を上回り13.0%増と12か月連続で増勢を保った。また、ホワイトデー商戦の活況を受けた菓子も0.5%増と4か月連続の前年を確保。

訪日外国人動向は好調を維持し、売上高13.2%増(約157億円)、購買客数31.0%増(約23万人)とそれぞれ38か月連続プラス。一般物品売上が前年を下回ったものの、消耗品売上の伸びがこれをカバーするなど、購買品目の拡がりも含め消費スタイルに変化が窺える。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「3月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇日本の東海上で高気圧が強く、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、月平均気温は、東・西日本ではかなり高かった。また、全国的に上旬と中旬の後半は暖かい空気に覆われ高温となった一方、中旬前半と下旬に大陸からの寒気が流れ込んだ影響で気温の低い時期があったため、気温の変動が大きかった。

(2) 営業日数増減 30.9日(前年同月比 ±0日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日(〃 ±0日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見える傾向値/前年同月比/有効回答数138店舗)

①増加した：26店、②変化なし：34店、③減少した：78店

(5) 3月歳時記(ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上(同上/有効回答数103店舗)

①増加した：8店、②変化なし：70店、③減少した：25店

全国百貨店 売上高速報 2016年03月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	527,746,926	100.0	-2.9 (-3.0)
10都市	355,887,598	67.4	-1.7
札幌	13,504,913	2.6	-2.9
仙台	7,355,699	1.4	-2.0
東京	141,778,628	26.9	-1.1
横浜	30,811,380	5.8	-3.0
名古屋	34,395,286	6.5	-2.2
京都	21,940,687	4.2	2.1
大阪	64,391,838	12.2	-2.2
神戸	13,394,444	2.5	-5.7
広島	10,797,046	2.0	-3.7
福岡	17,517,677	3.3	-1.2
10都市以外の地区	171,859,328	32.6	-5.1 (-5.6)
北海道	2,991,472	0.6	-2.3
東北	9,445,873	1.8	-0.8
関東	78,947,113	15.0	-6.8 (-7.8)
中部	12,443,131	2.4	-5.4
近畿	22,164,474	4.2	-4.5
中国	11,758,973	2.2	-1.4
四国	8,776,086	1.7	-4.4
九州	25,332,206	4.8	-3.8

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	527,746,926	100.0	-2.9 (-3.0)
紳士服・洋品	33,912,266	6.4	-5.8 (-6.0)
婦人服・洋品	110,412,453	20.9	-8.3 (-8.5)
子供服・洋品	22,285,703	4.2	-1.7 (-1.8)
その他衣料品	12,164,891	2.3	-2.7 (-3.0)
衣 料 品	178,775,313	33.9	-6.7 (-6.9)
身のまわり品	68,004,721	12.9	-4.9 (-5.0)
化粧品	40,432,252	7.7	13.0 (12.8)
美術・宝飾・貴金属	29,383,664	5.6	-4.3 (-4.3)
その他雑貨	20,837,376	3.9	-4.9 (-5.3)
雑 貨	90,653,292	17.2	2.6 (2.4)
家 具	6,947,255	1.3	-8.9 (-9.0)
家 電	1,646,430	0.3	10.7 (10.7)
その他家庭用品	17,443,409	3.3	1.1 (0.8)
家 庭 用 品	26,037,094	4.9	-1.3 (-1.4)
生 鮮 食 品	24,316,847	4.6	-3.2 (-3.4)
菓 子	45,561,510	8.6	0.5 (0.3)
惣 菜	28,367,036	5.4	0.0 (-0.1)
その他食料品	34,762,356	6.6	0.0 (-0.3)
食 料 品	133,007,749	25.2	-0.4 (-0.6)
食 堂 喫 茶	14,020,542	2.7	-4.5 (-4.8)
サ ー ビ ス	5,916,477	1.1	-5.1 (-5.5)
そ の 他	11,331,738	2.1	4.6 (4.5)
商 品 券	13,040,105	2.5	-7.5 (-7.6)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | - 1.7% (2か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | - 5.1% (店舗数調整後/5か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	- 1.7	- 1.2	2か月ぶりマイナス
札幌	- 2.9	- 0.1	2か月連続マイナス
仙台	- 2.0	0.0	4か月ぶりマイナス
東京	- 1.1	- 0.3	12か月ぶりマイナス
横浜	- 3.0	- 0.2	3か月連続マイナス
名古屋	- 2.2	- 0.1	3か月連続マイナス
京都	2.1	0.1	8か月連続プラス
大阪	- 2.2	- 0.3	3か月連続マイナス
神戸	- 5.7	- 0.1	2か月ぶりマイナス
広島	- 3.7	- 0.1	5か月連続マイナス
福岡	- 1.2	0.0	2か月ぶりマイナス
10都市以外の地区	- 5.1	- 1.7	5か月連続マイナス
北海道	- 2.3	0.0	11か月連続マイナス*
東北	- 0.8	0.0	5か月連続マイナス*
関東	- 6.8	- 1.1	10か月連続マイナス
中部	- 5.4	- 0.1	2か月ぶりマイナス
近畿	- 4.5	- 0.2	5か月連続マイナス
中国	- 1.4	0.0	3か月連続マイナス*
四国	- 4.4	- 0.1	2か月ぶりマイナス
九州	- 3.8	- 0.2	2か月ぶりマイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が12か月連続のプラスとなった。また、衣料品が5か月連続、家庭用品が3か月連続、身のまわり品と食料品が4か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が12か月連続、菓子が4か月連続、惣菜が2か月連続、家電、その他家庭用品が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-2.9	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-5.8	-0.4	5か月連続マイナス
婦人服・洋品	-8.3	-1.8	5か月連続マイナス
子供服・洋品	-1.7	-0.1	5か月連続マイナス
その他衣料品	-2.7	-0.1	5か月連続マイナス
衣料品	-6.7	-2.4	5か月連続マイナス
身のまわり品	-4.9	-0.6	4か月ぶりマイナス
化粧品	13.0	0.9	12か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-4.3	-0.2	2か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-4.9	-0.2	3か月連続マイナス*
雑貨	2.6	0.4	12か月連続プラス
家具	-8.9	-0.1	2か月ぶりマイナス
家電	10.7	0.0	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	1.1	0.0	2か月ぶりプラス
家庭用品	-1.3	-0.1	3か月連続マイナス
生鮮食品	-3.2	-0.1	24か月連続マイナス*
菓子	0.5	0.0	4か月連続プラス*
惣菜	+0.0	0.0	2か月連続プラス*
その他食料品	-0.0	0.0	3か月ぶりマイナス*
食料品	-0.4	-0.1	4か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-4.5	-0.1	5か月連続マイナス
サービス	-5.1	-0.1	9か月連続マイナス
その他	4.6	0.1	2か月連続プラス
商品券	-7.5	-0.2	61か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成28年3月 東京地区百貨店売上高概況

平成28年4月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 417億円余
2. 前年同月比	-1.1% (12か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-2.4%(88.4%) : 非店頭10.7%(11.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成28年2月対比±0店)
5. 総店舗面積	882,667㎡ (前年同月比: 3.2%)
6. 総従業員数	18,566人 (前年同月比: -1.3%)
7. 3か月移動平均値	8-10月 6.1%、9-11月 3.9%、10-12月 3.0%、 11-1月 1.0%、12-2月 1.7%、1-3月 0.5%

[参考] 平成27年3月の売上高増減率は-16.5%

【特徴】

- (1) 3月は月平均気温が高く降水量も少なかったものの、寒暖の差が激しく中盤からの冷え込みも影響し、入店客数は0.9%のマイナス。総額でも1.1%減と1年ぶりに前年を下回る結果となった。
- (2) 商品別では、雑貨が12か月連続、食料品も7か月連続の前年確保。家庭用品も2か月ぶりにプラスに転じるなど健闘したが、春物商材の不振が影響した衣料品と身のまわり品のマイナスをカバーするには至らなかった。
- (3) 細分類では、インバウンドに加え国内需要も好調な化粧品が22.6%増の12か月連続プラス。特選食器や調理日用品が好調だったその他家庭用品、ホワイトデー商戦が盛り上がりを見せた菓子のほか、惣菜、その他食料品なども前年をクリア。
- (4) 個別商材では、パンツやスカーチョとの組み合わせでブラウスやカットソーに動きが見られる一方、装身具で着こなしを工夫する傾向から婦人アクセサリーに人気が集まった。また、ゴルフウェアやスポーツシューズ、アウトドア商品など健康商材が引き続き好調。
- (5) 4月は前半から寒い日が続き、春物商材及び初夏物の動きが鈍いことなどから、14日現在約2%減で推移。土曜日の1日増や、大型連休を含むGWなどカレンダー上の利点を活かした各社の人気催事や好調商材の展開に期待がかかる。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.9日 (前年同月比-0.1日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 6店、③減少した: 9店
- (3) 3月歳時記 (ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活) の売上 (同上/有効回答数11店舗)
①増加した: 0店、②変化なし: 5店、③減少した: 6店

東京地区百貨店 売上高速報 2016年03月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	141,778,628	100.0	-1.1
紳士服・洋品	11,178,407	7.9	-3.6
婦人服・洋品	25,970,927	18.3	-9.9
子供服・洋品	5,812,775	4.1	-1.1
その他衣料品	2,510,113	1.8	-0.2
衣 料 品	45,472,222	32.1	-6.8
身のまわり品	19,784,066	14.0	-4.0
化粧品	12,426,679	8.8	22.6
美術・宝飾・貴金属	8,963,159	6.3	-3.3
その他雑貨	6,374,197	4.5	-4.9
雑 貨	27,764,035	19.6	6.4
家 具	2,492,980	1.8	5.2
家 電	935,546	0.7	8.2
その他家庭用品	5,246,501	3.7	14.9
家 庭 用 品	8,675,027	6.1	11.2
生 鮮 食 品	4,399,922	3.1	-3.2
菓 子	10,928,360	7.7	0.6
惣 菜	6,606,322	4.7	0.8
その他食料品	8,788,700	6.2	3.4
食 料 品	30,723,304	21.7	0.9
食 堂 喫 茶	3,201,744	2.3	-2.0
サ ー ビ ス	2,617,862	1.8	-6.5
そ の 他	3,540,368	2.5	2.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	2,934,247 千円	-3.1
従 業 員 数	18,566 人	-1.3
店 舗 面 積	882,667 m ²	3.2

営 業 日 数	30.9 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が12か月連続、食料品が7か月連続、家庭用品が2か月ぶりのプラスとなった。また、衣料品が5か月連続、身のまわり品が2か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が12か月連続、菓子、その他食料品が7か月連続、家具、その他家庭用品が4か月連続、惣菜が2か月連続、家電が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.1	—	12か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-3.6	-0.3	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-9.9	-2.0	5か月連続マイナス
子供服・洋品	-1.1	0.0	9か月ぶりマイナス
その他衣料品	-0.2	0.0	2か月ぶりマイナス
衣料品	-6.8	-2.3	5か月連続マイナス
身のまわり品	-4.0	-0.6	2か月連続マイナス
化粧品	22.6	1.6	12か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-3.3	-0.2	2か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-4.9	-0.2	8か月連続マイナス*
雑貨	6.4	1.2	12か月連続プラス
家具	5.2	0.1	4か月連続プラス
家電	8.2	0.0	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	14.9	0.5	4か月連続プラス
家庭用品	11.2	0.6	2か月ぶりプラス
生鮮食品	-3.2	-0.1	2か月ぶりマイナス*
菓子	0.6	0.0	7か月連続プラス*
惣菜	0.8	0.0	2か月連続プラス*
その他食料品	3.4	0.2	7か月連続プラス*
食料品	0.9	0.2	7か月連続プラス
食堂喫茶	-2.0	0.0	3か月連続マイナス
サービス	-6.5	-0.1	9か月連続マイナス
その他	2.6	0.1	8か月連続プラス
商品券	-3.1	-0.1	13か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>